

提を供養した窪田町の阿弥陀寺跡と、 が思い出されます。今月は、 千眼寺の勢至菩薩坐像を紹介します。 12月といえば赤穂浪士の吉良邸討入 吉良家菩

ざぞう坐像

## 生善院が創建した浄土宗寺院

じ寺し至 跡ば菩 とさ薩

あ み だ **阿弥陀** もくぞうせい **木造勢** (窪田町窪田) 都の金戒光明寺の末寺として創建され である生善院が、上杉家縁者の長命を た浄土宗の寺院です。上杉綱勝の実母 阿弥陀寺は元禄6年(1693)に京

13 回

年には同寺3世証誉雲臥より山号・寺 知られ、宝永元年(1704)に江戸で 菩薩坐像は霊験あらたかな仏像として 号の額を受けました。また、本尊の勢至 位様)にも篤く信仰されました。 御開帳され、徳川綱吉の生母・桂昌院(一 江戸の増上寺とも縁が深く、元禄13

災に遭い寺号額などは焼失、 帳を催し、 は無事で、 阿弥陀寺は正徳2年(1712)に火 募金を集め再建されました。 翌3年に再び江戸で勧進開 幸い本尊

## 清寿院の信仰と祐天上人はいいいん

江戸の祐天上人が開く常念仏(絶え間な 願主は上杉綱憲の側室であった清寿院 く念仏を唱えること)が始まりました。 享保3年(1718)より阿弥陀寺で、

> な仏像として、平成2年に山形県の有 勢至菩薩坐像は、平安末頃作成の貴重

なお、千眼寺に移された本尊の木造

形文化財に指定されました。

他3名の菩提を供養する常念仏でした。 と宝寿院で、 を閉じました。清寿院は13回忌にあた 法名)・室燈院殿(吉良義周の法名)と 入事件に遭遇、宝永3年(1706)に 祖父にあたる上野介の養子となり、 清寿院は吉良義周の実母です。義周は 配流された諏訪高島で21年の短い生涯 人にお願いしたものと思われます。 祐天上人は増上寺36世ですが、 実子義周と吉良家の供養を祐天上 霊性寺殿(吉良上野介 念仏 討

して著名です。後に目黒に祐天上人の の力で怨霊から多くの人々を救った僧と 廟所でもある祐天寺が開かれました。

善院は吉良上野介に嫁いだ三姫(富子)

願って建立したと伝えられています。

生

の母でもありました。

## 祐天寺による 阿弥陀寺跡の整備

牌は千眼寺に移され、 以後は西蓮寺などの兼務となり、 石碑を整備して供養を行いました。 吉良上野介・義周の法名が刻まれた位 20年以降に廃寺となりました。仏像や 祐天所縁の大事な遺跡として、 ていた東京の祐天寺は、 平成22年、 その後、 阿弥陀寺は再び火災に遭い、 祐天上人の事跡を調査し 寺跡は荒廃し 阿弥陀寺跡は 石仏や

## 雪のシーズンいよいよ到来~みんなの安全守るため、出発進行!~







